

4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献

本研究の成果及び研究に伴って確立された防護柵の設置・管理技術を参考に、衰退激甚エリアにおいて広域シカ防護柵の設置等の生態系維持回復事業が展開される結果となった。また、ブナの植樹等を実施している団体に向けて、植栽場所や植生管理方法を助言し、保全活動の効果的な推進に貢献できた。将来的に健全なブナ林が再生され、シカの適正密度が保たれば、生物多様性の向上のみならず、洪水緩和やCO²吸収などの多面的機能の向上に寄与すると考えられる。

5) 調査研究結果の独創性、新規性

シカ防護柵の設置による林床植生の変化を検証した研究は多く存在するが、木本類の生残や成長に影響を与える環境要因を解析した事例はほとんどない。また、これらの環境要因を広域的に把握することで、面的な将来予測に活用し、具体的な施策にまで展開していく試みは先進的と言える。

6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）

本研究で明らかとなった防護柵の有効性を参考に、衰退激甚エリアにおいて広域防護柵が設置された。当事業の計画策定においては、本研究に伴って技術確立された防護柵の設置・管理方法が適用されるとともに、ゾーニング結果に基づいて設置エリアが決定された。また、衰退激甚エリアでブナの実生が全く確認されず、そのほかの後継樹種の実生も著しく少ないことが明らかとなったことから、ブナの植栽が優占的に実施される運びとなった。

今後は、本研究により提案された保全・復元計画に基づき、他の衰退ゾーンにおける防護柵の設置や、かつて英彦山ブナ林を構成していた樹種の植栽の検討が進むと考えられる。

7) 当該調査研究課題に関する発表等

① 行政に対する情報提供

- ・ 耶馬日田英彦山国定公園生態系維持回復事業：シカ防護柵の設置計画への助言
- ・ 指定管理鳥獣捕獲等事業：植生被害状況・シカ生息密度等の情報提供
- ・ 英彦山及び犬ヶ岳生態系回復事業：希少植物の生育状況の情報提供、種子採取と栽培、防護柵の設置協力、当事業における保全・復元計画の提案
- ・ 地方環境研究機関と国立環境研究所とのII型共同研究：年2回の検討会における情報提供、報告書による成果報告

② 県民への情報提供（保環研ニュース・年報・新聞報道等）

- ・ 保健環境研究所年報 短報 2016
- ・ 福岡県環境教育学会 ニュースレター 2017
- ・ 保健環境研究所ホームページ トピックス 2017

③ 学会誌掲載、学会発表

[学会誌]

- ・ 全国環境研会誌 報文 2017

[学会発表]

- ・ 大気環境学会 2018
- ・ 自然系調査研究機関連絡会議 2017

④ その他（学会賞の受賞、特許出願）

なし

8) 研究経費（年度毎に下記区分により記載のこと）

平成28年度：②経常経費(C経費)【金額：100千円，区分：県費】

平成29年度：②経常経費(C経費)【金額：100千円，区分：県費】

平成30年度：②経常経費(C経費)【金額：100千円，区分：県費】

9) 従事時間数（年度毎の従事時間数を事務概要調書を参考に記載のこと）

平成28年度：720時間

平成29年度：720時間

平成30年度：720時間

10) 備考（研究を実施する上で問題・障害となった事項等があれば記載のこと。）

- ・ 様々な法規制の対象となる区域のため、研究遂行に伴う各種申請とそれに係る調整等に時間がかかった。
(自然公園法・鳥獣保護法・文化財保護法・土地所有者の承諾など)